

■一休宗純 臨済の禅僧。東山文化の芸術家らの指導者。ユニークな生涯で“風狂”と“頓智小僧”のイメージが定着。

いっきゅうそうじゅん

義満太政大臣1394= 京都の民家で、南朝遺臣の女が宿した_後小松天皇の子に生まれる。

応永の乱・・・1399= 5歳：_臨済五山派の名寺である京都安国寺に入り、像外集鑑についた。

・・・・・・1403= 9歳：

足利義満没・1408=14歳：その詩才はすでに都で評判をえていた。

持氏鎌倉公方1409=15歳：_権勢におもねる五山派の禅にあきたらず、安国寺を去り、

・・・・・・1410=16歳：同じ臨済でも_在野の立場に立つ林下の禅を求めて、隠士謙翁宗為に師事し、宗純と改名。

・・・・・・1412=18歳：

・・・・・・1414=20歳：_深い影響を受けた師の謙翁が死去、自殺まで考えたが、果たせず、

・・・・・・1415=21歳：_近江堅田の華叟宗曇の門に走った。こうして大徳寺大灯の禅門に入り、
青年期の堅田での修行は、衣食にもことかき、香袋を作り雛人形の絵つけをして糧をえながら弁道に励んだという。

・・・・・・1418=24歳：_琵琶法師の語る「平家物語」を聞いて、悟るところがあり、宗曇から一休という道号を与えられた。

・・・・・・1420=26歳：*ある夜、湖上を渡るカラスの声を聞いたとき、忽然と大悟した。

・・・・・・1421=27歳：
以後、印可を否定。

義教籤引將軍1428=34歳：_師の華叟没後、請われて大徳寺に入ったが、参集する人々の雑踏に嫌気がさし、すぐに退庵。

尚氏王統確立1430=36歳：

やがて堅田をはなれ、丹波の山中の庵に、あるいは京都や堺の市中で、真の禅を求め、あるいはその禅を説いた。_虚飾と偽善を嫌い、天衣無縫と反骨で終始した。壮年以後は、公然と酒のみ、女犯を行う。

永享の乱始・1438=44歳：

永享の乱終・1439=45歳：

嘉吉の乱・・・1441=47歳：

成氏鎌倉公方1447=53歳：*大徳寺の内紛に耐えかねて絶食・自殺を図り、後花園天皇が諫止した。

・・・・・・1448=54歳：

・・・・・・1452=58歳：墨溪、「一休宗純像」(少林寺)を描く。

・・・・・・1456=62歳：_山城南部の薪村に妙勝寺(のちの酬恩庵)を復興。以後この庵を拠点に活躍。

道灌江戸城始1457=63歳：

_その人柄と独特の禅風に傾倒して連歌師の宗長や宗鑑、水墨画の曾我蛇足、猿楽の金春禅竹や音阿弥、わび茶の村田珠光らが参禅し、彼の禅は東山文化の形成に大きな影響を与えた。

・・・・・・1460=66歳：「寒鴉図」を描く。

・・・・・・1466=72歳：_晩年でさえ、森侍と呼ばれた盲目の美女を愛し、

応仁の乱始・1467=73歳：_この年以前、「狂雲集」初稿本を著す。

京都を出て、山城、奈良、和泉を転々とし、住吉の松栖庵に入った。

加賀一揆始・1474=80歳：*勅命で大徳寺住持となり、堺の豪商尾和宗臨らの援助で、応仁の乱で焼失した伽藍の復興をなしとげ、

・・・・・・1475=81歳：

応仁の乱終・1477=83歳：

兼良+一休没 1481=87歳：_没した。
「狂雲集」「自戒集」。

藤原東演「禅の名僧列伝」、松岡心平「中世を創った人々」、「日本史重要人物101」、「この人どんな人」、「没年日本史人物事典」、「人物日本歴史館」、「日本の群像」、平凡社百科事典、山田風太郎「人間臨終図巻」、「目でみる日本人物百科」、